教職課程 概要（新潟青陵大学福祉心理子ども学部）

１．教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

１．取得可能な教員免許状

福祉心理子ども学部 子ども発達学科　幼稚園教諭一種免許状

２．教員養成の目標

新潟青陵大学では教員養成課程において、教員としての使命感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力などを基に、チーム学校の一員として新たな教育課題に対応できる資質・能力を身に付けた人材の育成を目指しています。
より実践的な資質・能力の向上によって社会のニーズに応えるため、以下のような教員養成の目標を掲げています。

１．豊富な実地体験活動による実践的教育力の育成
２．Society5.0 に備えた ICT の活用による新しい知や価値を生み出す能力の育成
３．教職のキャリアステージに応じて生涯学び続け研鑽しつづける態度の涵養

子ども発達学科では、以下のような「育てたい人材像」を設定しています。

１．幼児教育・保育に関する高い専門性と実践的能力をもち、自らの経験を体系化して他と共有し続ける人材
２．子ども家庭支援に関する高い専門性と実践的能力をもち、自らの経験を体系化して他と共有し続ける人材
３．子どもの発達やそれを促す環境と働きかけに関する専門知識をもとに、市民として他者と協働しながら社会の中で役割を果たす人材
４．キャリアステージに応じて、新たな知見を求め続け、研鑽し続ける人材

「育てたい人材像」の１は幼児教育の現場に出る学生を想定した人材像であり、４は就職先に拘わらずすべての学生を想定した人材像であり、この２つが本学科の教員養成の目標になります。

3．教員養成の計画

■到達目標

履修年次		到達目標
年次	次期	
	前期	幼稚園教育要領の概要を理解し、教育の目標を達成するための教育活動全体をイメージすることができる。
		教育現場への興味・関心をもち、子どもと共に過ごすことに喜びを感じることができる。
		学生同士の話し合いで、他者の意見に耳を傾け、協力しながら自身の意見を伝えることができる。

1年次	後期	子どもと接したりコミュニケーションをとったりするための基礎的な技術を表現することができる。
		子どもの生活や遊びの体験の意味を知り、指導の意味合いを理解している。
		基本的なマナーを確認し、教員や学生同士で好ましいコミュニケーションをとりながら、集団での話し合いや共同作業に積極的にかかわろうとする。
		大学の施設や図書館等の利用、ＩＴ機器を活用して教育活動を行う上での必要な情報を収集することができる。
2年次	前期	子どもを理解し意図的、計画的に育てることの重要性を学び、教員としての自らの資質能力の向上について述べることができる。
		すべての人を育ちゆく存在と捉え、幼児の発達に即した学びの実現に向けた視点をもつことができる。
		子どもと対話しながら、子どもの不安や喜びを想像し、言いたいことを理解しようと努力することができる。
		教育・保育に対して熱意もち、子どもの自立支援にどのような知識や技術が必要かについて、自己の課題意識を述べることができる。
	後期	法令、社会的モラル、人権に対する理解や健康的な生活・安全管理に関する理解を深め、責任感や教育的な情愛をもって行動することができる。
		保育実践において，子どもを理解するための具体的な方法や実態把握に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解している。
		子どもの記録の活用方法を理解し、多様な子どもの育ちへの対応の意義を検討することができる。
		幼稚園教育要領等をもとに具体的な保育を構想し、模擬保育をとおして改善することができる。
3年次	前期	様々な教授方法や学習理論を理解し、多様なニーズを必要とする子どもへの対応や配慮について検討することができる。
		子育て家庭を取り巻く状況を社会、地域、家庭の側面から考察し、子どもの生活実態や保護者との連携の必要性について理解することができる。
		実習を通した観察・参加により幼児の発達段階や教師の指導・援助の意図を理解し、自己の実践に活かそうとすることができる。
		教育課程の編成、5 領域のねらいと内容を意識しながら具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
	後期	幼児の生活環境をより広く捉え、依存から自立に向かう姿を生活の中から分析し、解決に向かう問いを立て、その課題を他者と共同で検討することができる。
		教育課程の編成、5 領域のねらいと内容を意識しながら指導を改善する重要性を理解することができる。
		教育課程及び子ども一人一人の興味・関心の両方の視点から個と集団の実態に即した指導計画及び個別の指導計画を作成することができる。
		子どもと一緒に遊びながら子どもの様子を冷静に観察することにより、子どもと語り合おうと努力するなかで、子どもの成長と発達を支える技能を獲得しようと努力することができる。
4年次	前期	教育の社会的意義・制度・経営についての理論と知識を習得している。
		保護者、地域、関係機関、小学校との連携と協働についてイメージをもち、様々な取組について関係者と積極的に相談したり協議したりすることができる。
		自身の経験や具体的なエピソードから子どもと保護者から学び、共に成長しようとする意識をもち、幼稚園教諭としての専門性について語ることができる。
		今日的な教育の課題に関心を持ち、大人も子どもも健全に成長できる社会を実現するために、多面的、多角的に解決方法を探ることができる。
		教育実習の経験を踏まえ、自己課題を問い直したり、新たな自己課題を見出したりして、振り返りの視点をもちながら常に学び続けようという姿勢を持つことができる。

	後期	子どもの多様性を受け入れ、親しみを持った態度で接し、子どもが心をひらくための関係つくりに必要な働きかけを考察することができる。
		他者と共同して現代の子どもの生活環境や地域の課題を見い出し、同僚性を考慮しながらリーダーシップを発揮し、よりよい教育の在り方について、能動的・促進的に他者へ働きかけることができる。
		社会に対する関心や自ら学ぶ意欲を持ち続け、社会に貢献しようとしている。
		教育者としての使命感と倫理観をもち、豊かな人間性と高度な専門性を目指して学び続ける意欲をもつことができる。

■履修カリキュラム

履修年次		保育内容の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	領域に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の６に関する科目
年次	次期				
1年次	前期	保育内容総論	子どもと表現		英会話Ⅰ IT活用演習Ⅰ スポーツⅠ
	後期		子どもと言葉 子どもの運動遊び 子どものことば遊び 子どもの造形遊び	社会的養護Ⅰ	英会話Ⅱ IT活用演習Ⅱ
2年次	前期	教育本質論 発達心理学Ⅰ	子どもと環境	乳児保育Ⅰ 社会的養護Ⅱ	スポーツⅡ
	後期	子どもの理解と援助 環境指導法 言葉指導法 表現指導法	子どもと健康 子どもと人間関係	子育て支援Ⅰ	人の暮らしと日本国憲法
3年次	前期	健康指導法 人間関係指導法 幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅰ		子ども家庭支援論 子ども家庭支援の心理学	
	後期	保育者論 教育・学校心理学 保育の計画と評価 教育方法論			
	通年	特別の支援を必要とする乳幼児の保育			
		教育制度論			

4年次	前期	教育相談（カウンセリングを含む） 幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅱ			
	後期				
	通年	保育実践演習			

2．教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

■領域に関する専門的事項に関する科目

専任等の別	教授等の別	氏名	担当授業科目
専任	教授	齊藤 勇紀	子どもと環境
専任	准教授	山口 恵子	子どもと言葉 子どものことば遊び
専任	准教授	佐藤（新井） 菜美	子どもと健康 子どもの運動遊び 子どもと表現
兼担	教授	中野 啓明	子どもと人間関係
兼担	講師	福岡 龍太	子どもの造形遊び

■大学が独自に設定する科目

氏名	担当授業科目
佐藤 朗子	子ども家庭支援の心理学
齊藤 勇紀	乳児保育Ⅰ 子ども家庭支援論 子育て支援Ⅱ
藤瀬 竜子	子育て支援Ⅰ 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ
佐藤 貴洋	子育て支援Ⅰ

■保育内容の指導法、教育の基礎的理解に関する科目等

専任等の別	教授等の別	氏名	担当授業科目
専任	教授	渡辺 優子	表現指導法 幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ
専任	教授	伊藤 充	保育者論

			教育制度論 保育の計画と評価 幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ
専任	教授	佐藤 朗子	人間関係指導法 教育本質論 教育方法論 子どもの理解と援助 幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 保育実践演習
兼担	教授	齊藤 勇紀	環境指導法 特別の支援を必要とする乳幼児の保育 子どもの理解と援助 幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 保育実践演習
兼担	教授	碓井 真史	教育相談(カウンセリングを含む)
兼担	准教授	山口 恵子	保育内容総論 言葉指導法 幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ 保育実践演習
兼担	准教授	佐藤（新井） 菜美	健康指導法 幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ

3. 卒業者の教員免許状の取得、教員への就職の状況に関すること

卒業年 （3月卒）	免許取得者	幼稚園教諭採用者（非常勤含む）	
		県内	県外
2023			

4. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

１．理論と実践を循環するカリキュラム構成

学内における講義・演習系の科目と学外における実習科目及び幼児教育に関するボランティア体験とを1年次から4年次まで効果的に組み合わせることによって、理論と実践の循環を目指します。講義や演習による知識や技能の修得と、現実の子どもたちを面前にした実習体験とのあいだを継続的に行き来させることで、子どもの姿と学問的知識とが結びついた深い理解に導きます。また実習の経験から既有知識を問い直したり、知識と現実の葛藤に気づく中で自らの問いを立て追及したりする姿勢を育てます。さらにゼミナールでのフィールドワークや、学外でのボランティアや体験活動も含めた実践と理論の循環を重ねながら、幼児教育の実践的能力や他職種との連携の学びにつなげていきます。

２．幼児教育を巡る現代的諸課題に対応した授業内容の提供

Society5.0の時代に対応したICTの利活用、カリキュラム・マネジメントといった、幼児教育を巡る現代的諸課題に対応した授業内容を提供します。ICTの利活用に関しては、保育の現場でのICTの利活用の方法を、「教育方法論」や「人間関係指導法」「環境指導法」といった保育内容の指導法に関わる授業内で、科目を超えて目標を共有しその学びを積み重ねていきます。具体的には、ICTを活用したドキュメンテーション等の記録の作成、教材の作成、写真・動画を活用した作品鑑賞など、保育におけるICTの利活用の方法について取り上げます。そのために、すべての入学生に無償貸与しているノートPCに加えて、子ども発達学科の学生用のタブレット端末を用意しています。
また、カリキュラム・マネジメントに関しては、1年次の「保育内容総論」でその意義と概要を取り上げるだけでなく、3年次に配当する「保育の計画と評価」において、カリキュラム・マネジメント全体について実践的に修得できるようにします。さらに、4年次の「保育実践演習」においても、これまでの学修成果をもとに、これからの時代に求められるカリキュラム・マネジメントの手法等についても学修します。これらの科目は、グループ学修や討論を通して行われることもあり、自分の考えを根拠とともに説明し、能動的・促進的に他者へ働きかける力の育成につながります。

３．複合的な学部に属する利点を活かした教育

「福祉心理子ども学部」という複合的な学部に属する利点を活かした教員養成のための教育を行います。学びの中核となる幼児教育の学修を深め、子ども・家庭支援等の実践力を高めるためには、近接領域である心理学や社会福祉学の知識を得ることが有効です。子ども発達学科では、複合的な学部に所属している利点を活かし、「学部専門基礎科目」に教育学・保育学、心理学、社会福祉学の科目を配置し、「社会福祉原論Ⅰ」「発達心理学Ⅰ」「心理学概論」を必修科目としています。さらに、学生の関心に合わせて、これらの近接領域の科目を学ぶことができるように、他学科（福祉心理子ども学部社会福祉学科・臨床心理学科）聴講科目を配置しています。

４．履修指導及び教育相談等

教職課程の教員が中心となって、教職課程全般に関するガイダンスや教職課程の履修指導、教員採用選考検査の対策講座、教育相談等を行っています。